

顔面神経麻痺で入院された方へ

このパンフレットは顔面神経麻痺についての一般的な症状や・治療、および入院から退院までの経過について記載したものです。麻痺症状の程度や治療の効果には個人差がありますのでご理解下さい。急な発症、入院による環境の変化などで不安も大きいかと思いますが、少しでも安心して入院生活を送られ効果的に治療が受けられますよう身の回りのお世話・看護をさせて頂きたいと思っています。不安なこと、疑問に思ったことは何でもお気軽にお尋ね下さい。

◎顔面神経麻痺とは…

帯状疱疹ヘルペスウイルスが再活性化して起こるものと、原因不明のものとの2種類が考えられます(ヘルペスウイルスの再活性化を考慮し、ほぼ全ての方に抗ウイルス剤が点滴で投与されます)。いずれのパターンでも左右どちらか片方だけの顔面神経が障害され運動麻痺を起こしている状態になります。

症状は？

顔の片側の動きが鈍くなる、動きにくくなるため、十分に瞼が閉じれない状態となり、まばたきがしにくい・眼が乾燥する・充血する、食べ物(特に味噌汁、お茶など)が食べにくい・飲みにくい、口笛がふけない・話しにくい…などの症状がでます。症状には個人差があります。

治療は？

抗ウイルス剤およびステロイド剤の入った点滴を10日間行ないます。

予後は？

顔面神経麻痺の回復には個人差があります。点滴治療を受けても入院中に全く改善のみられない場合もあります。症状が改善せず、落ち込まれることもあるかと思いますが、退院後に改善することも多く退院後2週間から6ヶ月の間に約90～95%は改善されると言われています。あきらめずに気長に症状の改善を待つように心がけましょう。

眼処置について

1. 目的

顔面神経麻痺で十分に出来ないため就寝時の角膜の乾燥を防ぐ。

2. 必要物品

ガーゼ、固定用テープ、眼軟膏、鏡(卓上に置けるもの、または洗面所の鏡)

3. 手順

- ① 固定用テープを10cm×2本用意する。
- ② 鏡に顔を映し、聞き手でない方の手の人差し指で下まぶたをひっぱり「あつかんべー」の状態にする。
- ③ 赤目の部分に眼軟膏を1cm程度しぼり入れる。その時、眼軟膏のしぼり口が赤目のところに付かないように注意する。
- ④ 軟膏がきちんと入っているのを鏡に映して確認してから手を離し、上まぶたと下まぶたをそっと合わせる。
- ⑤ その上にガーゼを当て(軽く覆う程度で良い)準備しておいたテープで固定する。

退院に向けて…




1. 心身ともにストレスがたまらないようにしましょう。
2. 顔に冷たい風が当たらないようにマスク等をしましょう(回復しかけている症状が悪化する恐れがあります)。
3. 顔面神経麻痺の後遺症が出てくる場合があります。例えば、目を閉じた時に口角が一緒に下がってしまう…など)。
4. 口腔ケアを十分に行ないましょう。麻痺のある方の口腔内は無意識に嚙んでしまったり、傷ついたり、不潔になりやすい傾向にあります。
5. 退院後も十分にまぶたが閉じられない場合は市販の物でも構わないので点眼を継続して下さい。眼帯の使用は視力減退の原因になることがあるので使用しないで下さい。就寝時は閉眼処置を継続して下さい(退院時に軟膏がない場合は診察時に処方を出して下さい)。
6. タバコは血管を収縮させて症状の回復を妨げる可能性がありますので控えるか、禁煙することが望ましいです。
7. 食事制限はありませんが、神経の復活にはビタミンB12が関与するとのデータがあります。ビタミンB12を多く含む食品を摂取するのも良いでしょう(しじみ、あさり、レバー、チーズ等があります)。

その他に心配なこと、聞きたいことがある場合は診察時に医師に相談しましょう！！



顔面神経麻痺で入院された方へ

(患者氏名) 様

	入院1日目 (/)	入院2日目～7日目 (/)	入院8日目～退院日 (/)
目標	<ul style="list-style-type: none"> ☆入院生活に慣れることができる ☆治療内容について理解出来る ☆不安・疑問が解決できる 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ステロイドの副作用が理解出来る ☆ステロイドの副作用がなく予定通り治療が受けられる ☆不安・疑問が解決出来る ☆目薬の自己管理が出来る 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ステロイドの副作用がない ☆退院後の注意事項が理解出来る
内服	服用しているお薬を確認させていただきます。 薬でアレルギーが出たことがある方はお知らせ下さい。	入院後、抗ウイルス剤の内服が始まります。 無くなるまで飲み続けてください。	
注射	<p>医師の許可が出てから、ステロイド剤入りの点滴をします。点滴は2時間前後かかります。</p> <p>※ステロイド剤の副作用として、血圧上昇・胃部不快感・にきびの増悪・血糖値の上昇などがあります。点滴をして異常を感じた場合はお知らせ下さい。必要に応じて医師の指示のもとに対処させていただきます。</p>	<p>毎日10時頃に、ステロイド剤入りの点滴を行ないます。</p> 	<p>退院日まで点滴は続きます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block;"> <p>心配なこと、気になることがあるときは診察時に医師にご相談下さい。患者さんの状態に合わせて医師がアドバイスいたします。</p> </div> 
検査	・入院時に血液検査など諸検査があります。	・入院中に採血をすることがあります。 	
処置	<ul style="list-style-type: none"> ・処置室②で診察があります。放送が入りましたら処置室前の椅子に掛けてお待ち下さい。順番にお呼びします。 ・まばたきが十分に出来ないことにより目が乾燥したり、傷ついたりする可能性があります。適宜、目薬をさして下さい。また、寝る前には閉眼処置をして目を保護していただきます(※方法については別紙を参照して下さい)。 	 	
食事	 <p>食事に関する制限はありません。ただし、糖尿病や腎臓病などの合併症で医師より制限を指示された場合は制限食を出させていただきます。</p>		
安静	特別安静が必要ということはありませんが、心身ともに十分に休めてストレスがかからないようにしましょう。		
清潔	入浴・シャワー等の制限はありません。点滴の針が入っている部分をぬらさないように保護して入るようにしましょう。		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・タバコは血管を収縮させて症状の回復を妨げる可能性がありますので控えましょう(病院敷地内は禁煙です)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・診断書類、入院費については病棟担当の医事課職員にご相談下さい。 ・請求書は退院が決まりましたら医事課職員が病室までお持ちします。 	

※これはあくまでも予定です。場合によっては予定通りにいかない事もありますので御了承ください。